

未来社会創造事業 探索加速型
「持続可能な社会の実現」領域
年次報告書(探索研究)

令和元年度 研究開発年次報告書

平成 30 年度採択研究開発代表者

[研究開発代表者名：檜山 敦]

[東京大学先端科学技術研究センター・講師]

[研究開発課題名：人材の多様性に応じた知的生産機会を創出する AI 基盤]

実施期間：平成 31 年 4 月 1 日～令和 2 年 3 月 31 日

§1. 研究開発実施体制

(1)「檜山」グループ(東京大学 先端科学技術研究センター)

① 研究開発代表者: 檜山 敦 (東京大学先端科学技術研究センター、講師)

② 研究項目

- ・ 人材スキル抽出: 人材評価マッチング検証
- ・ 仕事スキルの因数分解: 仕事のタスク分解検証
- ・ 人材支援技術
 - － スキル獲得支援技術設計
 - － テレワークインタフェース設計
 - － スキル補完マッチング設計

(2)「秋山」グループ(東京大学 高齢社会総合研究機構)

① 主たる共同研究者: 秋山 弘子 (東京大学高齢社会総合研究機構、特任教授)

② 研究項目

- ・ 人材スキルの抽出: 人材プロフィールの収集分析
- ・ 仕事スキルの因数分解: キャリアコンサルタント調査

§2. 研究開発実施の概要

2018 年度に提示したジョブマッチングプラットフォームの構造に基づき、人材プロフィールの収集分析と仕事のタスク分解データの収集分析、そしてマッチングアルゴリズムを設計検証するための研究開発を行った。研究開発のアウトプットとして、2018 年度に設定した、対象となる人材ターゲット層としての女性派遣領域・シニア・障害者フィールドに対して、構築したシステムをフィールドの準備状況に応じてそれぞれ部分的に実装する形で取り組んだ。特に 2019 年度は、リクルートグループのキャリアアドバイザー・リクルーティングアドバイザーへのヒアリングとデプス調査に基づいてインタフェース・アルゴリズム・システム設計に取り組んだ。人材プロフィール収集するインタフェース設計については、人材の持つ特徴量としては従来ジョブコーディネータの暗黙知に頼り、十分に抽出活用できていないソフトスキルと呼ばれる職務関連パーソナリティの収集分析を行い、職務経歴毎の特徴を得ることができた。仕事のタスク分解については、職務の記述構造に着目して、職域毎のハードスキルとソフトスキルを含む形で、仕事のタスク単位への分解抽出を支援するインタフェースを設計し、タスクデータを収集することができた。最終的なマッチングシステムの設計検証にあたっては、従来のジョブマッチングデータが抱えるマッチング評定者の信頼性の不確定性を補完する信頼性予測モデルを構築し、マッチング学習器に組み込んだシステムを設計した。株式会社リクルートスタッフィングの実データを用いた学習と検証を行うことで、マッチング結果における一定の信頼性の向上を達成した。